

# 学術情報リテラシー教育の理論と動向

平成20年度

学術情報リテラシー教育担当者研修

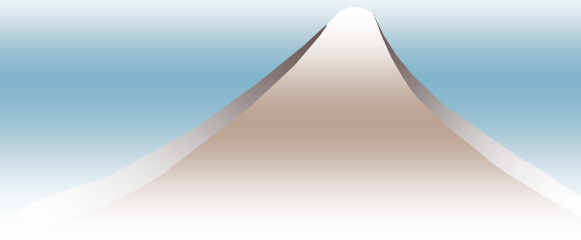
2008(平成20)年10月22日・11月19日



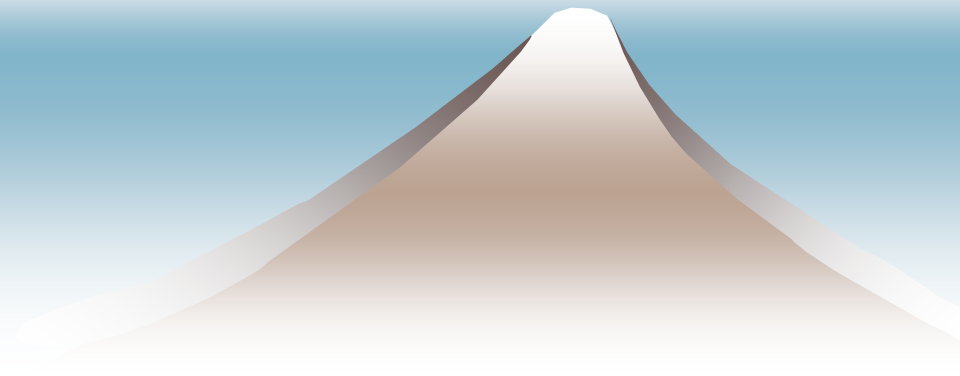
野末 俊比古(青山学院大学)

# 1. はじめに

- 研修の目的・構成
- 講義の目的・構成

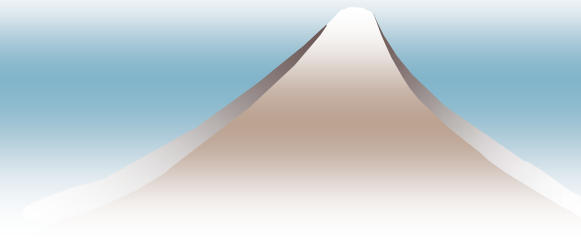


## 2. 学術情報リテラシー(教育) の意義と動向



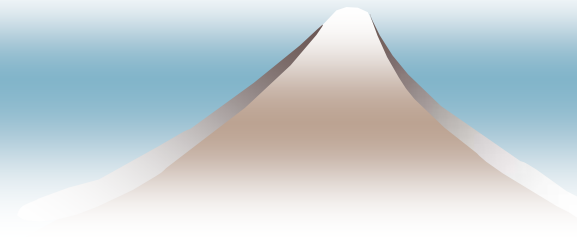
# 情報リテラシー(概念)の変遷

- 70年代: ビジネス能力
- 80年代: 日常生活全般
- 90年代: 「教育」に焦点
- 00年代: デジタルデバイドの解消



## (参考)これは「情報リテラシー」?

- Excelでデータを入力、グラフを作成
- HTMLでホームページを作成
- Yahoo! でAND検索やOR検索
- NDCで図書を探す
- 著作権法第32条を守る
- 出会い系サイトを使わない

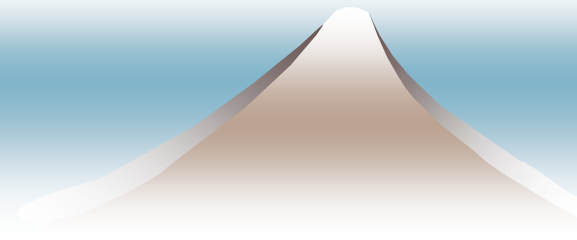


# 情報リテラシーの今日的な理解

- 情報を主体的に使いこなす能力
- 中身は分野・文脈に依存
- 一種のスローガンとして機能
- スキル(技能)の側面が強調
- 類縁概念との区別は曖昧
- 「図書館リテラシー」も(重要な)要素

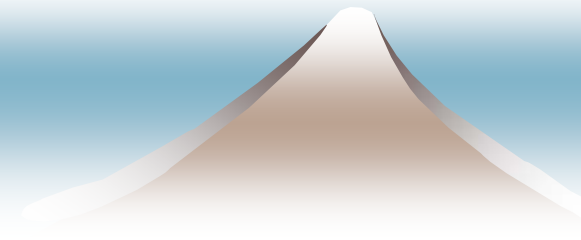
## 最近の研究動向(例)

- レビュー研究(国内)の登場
- 大規模な実態調査の実施・公開
- 実践に基づく報告・考察
- 理論的・歴史的な分析・検討



# 最近の実践動向(例)

- 導入教育(初年次教育)
- 出張(出前)講座
- 教材・ツール作成: テキスト、  
パスファインダ、ウェブ、...





## 最近の政策動向(例)

- I T 基本法(2001) → 資料A
- 学術審議会建議(1996)
- 科学技術・学術審議会報告(2006)

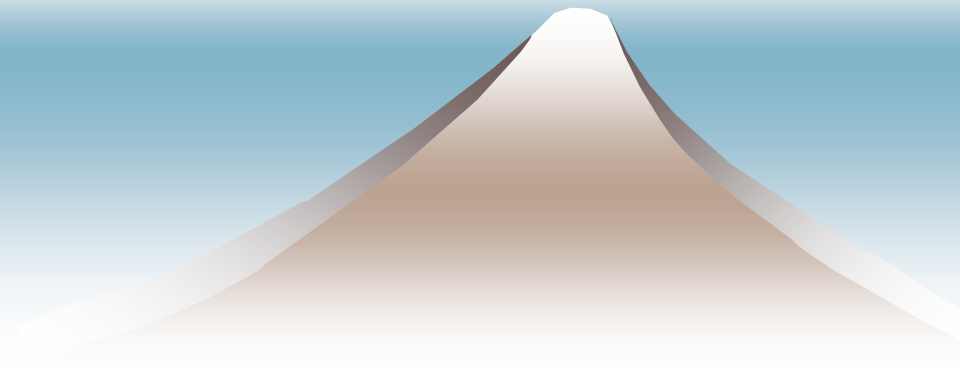
## (参考)空欄に入る言葉は？

- 2. 大学図書館を取り巻く課題  
2.5 図書館サービスの問題点  
多くの大学で行われている〔 〕は、  
教養教育及び各専門分野における  
教育との〔 〕が不十分であり、  
効果が〔 〕である。

## (参考)「学術情報基盤の 今後の在り方について(報告)」

- 多くの大学で行われている**情報リテラシー教育**は、教養教育及び各専門分野における教育との**連携**が不十分であり、効果が**限定的**である。
- (イ) **情報リテラシー教育の位置付けが不明確**

### 3. 大学図書館の利用者教育と 学術情報リテラシー教育

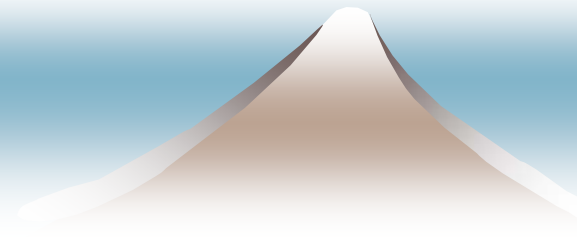


# 情報リテラシー教育のなかの 利用者教育

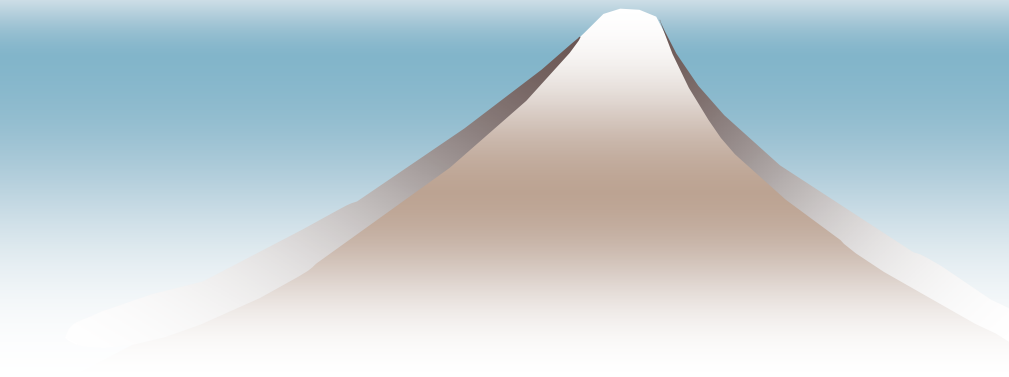
- 「図書館」「資料」→「情報」
- 「探索・収集」+「整理・分析」「表現・発信」
- 「図書館(員)」+「図書館以外(授業・教員など)」

# 「利用者教育」から「指導サービス」へ

- 図書館の「内部」から「外部」の文脈へ  
（体系的な情報リテラシー教育）
- 「逐次的」「個別的」「単発的」  
→「体系的」「計画的」「組織的」
- これまでの活動の再構築・体系化



## 4. 大学図書館による指導 サービスの展開(その1)



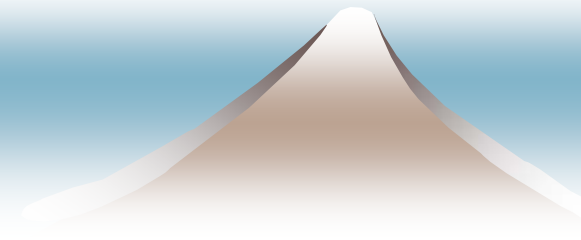
## (参考)PDCAサイクル

- マネジメントサイクル: Plan(計画)→Do(実施)→Check(評価)→Action(改善)→Plan→Do→・・・
- インストラクショナルデザイン



# 企画・実施にあたって①(Why, What) 指導サービスの目的・目標

- 目的(意義): 必要性・有効性
- 目標(内容): 利用者像(～ができる)
- 「図書館ならではの」「図書館だからこそ」

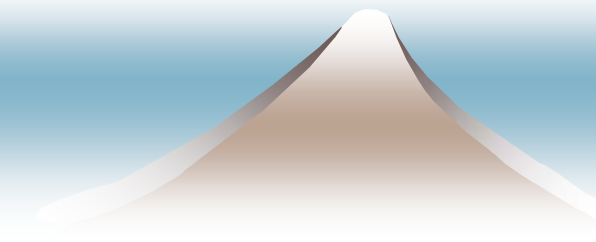


# 企画・実施にあたって②(How) 指導サービスの方法(手法)

- 直接(対面)／間接(遠隔)
- 同期的／非同期
- 集合(集団)／個別(個人)
- ツール(メディア)の活用

# 企画・実施にあたって③(Who, When, Where): 指導サービスの手順など

- 指導の順序(段階)→カリキュラム(プログラム)



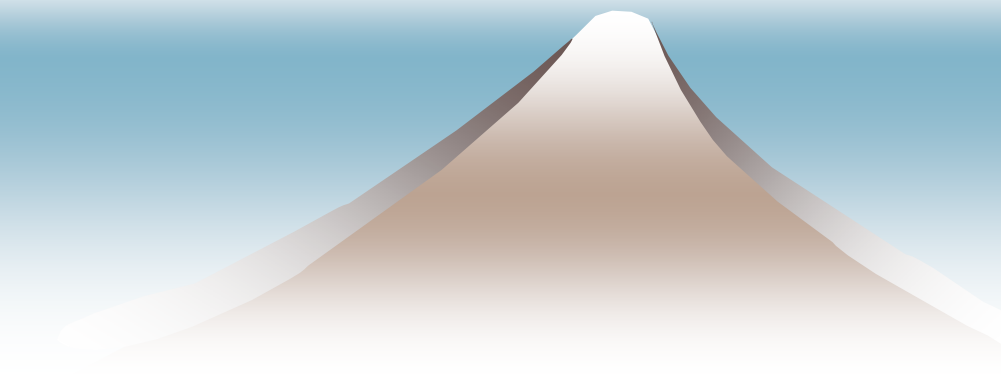
## (つづき)

- 授業との関連
  - 関連なし(図書館独自)
  - 学科関連指導
  - 学科統合指導
  - 独立学科目

# 「指導サービス」の指針など

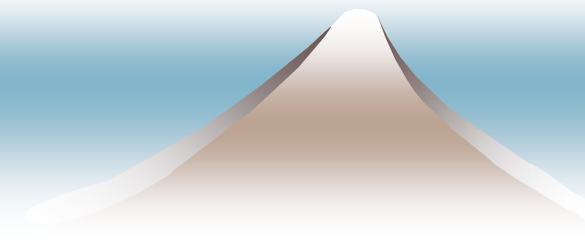
- 米国：ACRLの指針・基準など  
→ 資料D
- 日本：JLAの指針など → 資料E
- 「たたき台」や「投げどころ」として

## 5. 大学図書館による指導 サービスの展開(その2)



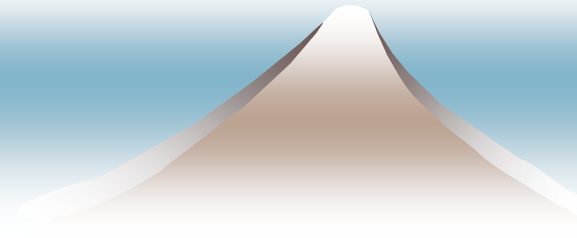
# 企画・実施にあたって④ (To Whom) 指導サービスの対象

- 利用者層の把握・分析：ニーズ、スタイル、...
- プロフィルの作成、...



## (参考)「ニーズ」とは？

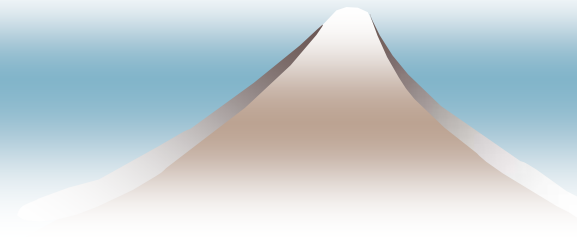
- ニーズ (need)
- デイマンドズ (demand)





# 「情報」利用者の変化と図書館

- インターネットなどの普及（メディアの多様化）
- 情報探索・利用行動の多様化（ブラウジング、チェイニング、モニタリングなど）
- 図書館の位置づけの変化

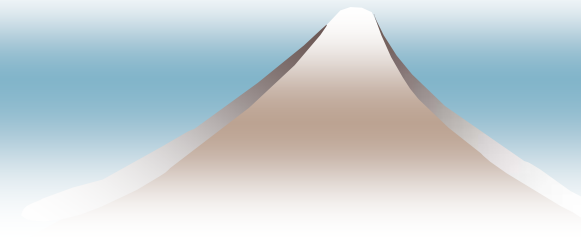


# (参考) 情報探索・利用「行動」と 「心理」・「思考」

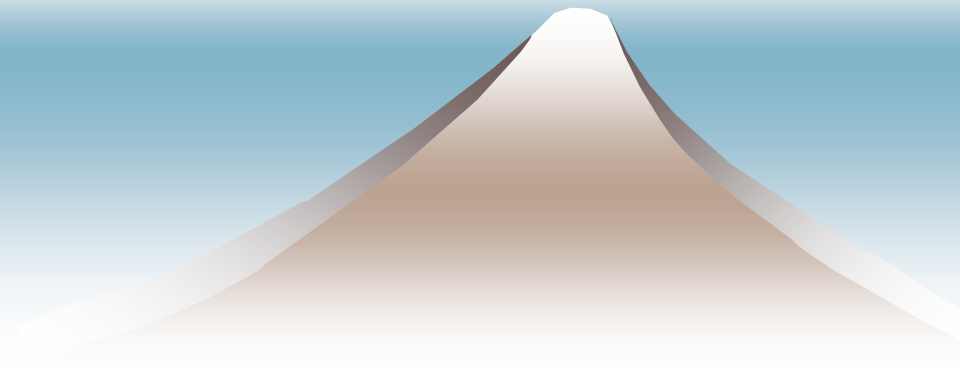
- 心理(感情・情意): 「不安」の軽減
- 思考(認知): 「見る」「聞く」「考える」

## 6. おわりに

- さまざまな課題：「共有」の重要性
- 大学コミュニティにおける位置づけ  
(ライブラリアイデンティティ)
- 図書館員の役割(専門性)

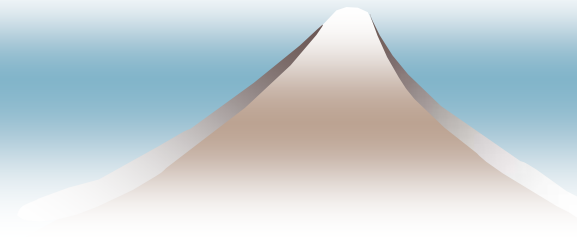


付. 高校までの「情報教育」の現状  
(教科「情報」を中心に)



## (参考)これは「情報リテラシー」?

- Excelでデータを入力、グラフを作成
- HTMLでホームページを作成
- Yahoo! でAND検索やOR検索
- NDCで図書を探す
- 著作権法第32条を守る
- 出会い系サイトを使わない



# 学校教育における情報教育

- 情報活用能力の育成:「生きる力(課題解決能力)」として
- 情報活用能力の要素(焦点)
  - 情報活用の実践力
  - 情報の科学的な理解
  - 情報社会に参画する態度
- 情報環境の整備:「e-Japan戦略」「IT新改革戦略」など

# 「情報教育」の体系化のイメージ

	実践力	科学的理解	態度	
小	総合的な学習での活用	各教科・科目での活用		
中			技術・家庭	社会
高			数学等	公民
		普通教科「情報」		

# 高校普通教科「情報」の概要

- 目標：情報化の進展に主体的に対応できる能力・態度の育成
- 構成：「情報A」「情報B」「情報C」から1科目以上が必修
- 特徴：「問題解決」が基礎、文理融合型、実習（技能）重視、...



# (参考) 中学校「技術・家庭」 「情報とコンピュータ」

- 情報手段が果たす役割
- コンピュータの構成・機能・操作
- コンピュータの利用
- ネットワーク
- (マルチメディアの活用)
- (プログラムと設計・制御)



ありがとうございました

ご意見、ご質問、ご批判を  
お待ちしております

(後日の場合はメールやファクスで)